

ナフサ危機の影響と考えられる支援は 需給の偏りや目詰まりの解消だ



山崎 長 栄
(公明党)



議員 ナフサの供給不安が続いている。我が国は約4割を中東から、約2割を他地域から輸入し、残り4割の国産分も元となる原料は、中東からの輸入に頼っている。今、多方面において製品の品薄、値上げが相次いでいることも伝えられている。この状況が長引くと市経済に及ぼす影響も少なからず危惧されるが、考えられる支援策は。

の声が寄せられており、ナフサの価格上昇による資材価格の高騰と、供給の偏りや流通の目詰まりが、企業経営を圧迫しているものと捉えている。資材価格の高騰や、事業活動に欠かせない資材の供給不安が長期化し、悪化した場合は、市内経済を支える事業者の事業縮小や休業につながり、雇用を始めとした地域経済活動に大きな影響を及ぼす可能性があるものと認識している。これらの影響は、全国のあらゆる業種において発生しており、国は、関係省庁が事業者直接向アプローチし、需給の偏りや目詰まりの解消を図っている。



ナフサの影響を受ける建設業

歴史・文化の伝承郷土愛が不足では 海山川を活かす施策を子どもたちに



高橋 松 一
(令和クラブ)



議員 まちづくりに重要な歴史・文化・郷土芸能の伝承、郷土愛が不足では。
総務企画部長 海・山・川の自然環境は市政運営・まちづくり全般に貴重な資源。自然環境全般、子どもたちに多様な自然体験の機会づくりを実施。海の分野では根浜海水浴場のイベントに加え、自然体験プログラムとして、漁船を活用した漁業体験や、三陸ジオパークにおけるシュノーケリングやシーカヤック、御箱崎千畳敷でのトレッキングなど多様なメニューを展開。つながり人口の拡大や観光振興に寄与していると認識。山の分野では釜石まんぷくフェスにおける親子木工教室の実施、五葉山登山、みちのく潮風トレイルのイベントなど、森林に親しむ機会の創出にも取り組んでいる。

る。川の分野ではホタル観察会の開催やアユ・ヤマメの稚魚放流などの活動を継続実施、身近な自然環境を大切にする心を育む機会とする。

このような河川環境の保全活動、県内外から釣り人が訪れるなど、交流人口の拡大にもつながっている。海・山・川を活かした取組により、子育てや教育に加え、観光を通じた産業振興などに効果を発揮。当市、昭和30年に隣接する4村が合併。今の市域が形成、この経過の中で育まれてきた各地域の資源・特性を活かすこと、持続可能なまちづくりのため重要との認識。



私たちのまちの紹介